

南島原市文化財調査報告書 第17集

# 東石原遺跡

—県営水利施設等保全高度化事業特別型(畑地帶扱い手育成型・見岳地区)に伴う発掘調査—

2019

南島原市教育委員会

南島原市文化財調査報告書 第17集

# 東石原遺跡

—県営水利施設等保全高度化事業特別型(畑地帶扱い手育成型・見岳地区)に伴う発掘調査—

2019

南島原市教育委員会



## 発刊にあたって

本書は県営水利施設等保全高度化事業に伴い、南島原市教育委員会が実施した東石原遺跡の発掘調査報告書です。

本市は現在、市の基幹産業である農業の推進を施政方針の柱として、生産性の向上に不可欠なほ場整備事業に県市一体となって取り組んでおります。

広範囲に及ぶ事業に伴い見岳地区の試掘・範囲確認調査を実施いたしましたところ、新規の遺跡が次々に発見されました。今回本書で報告する東石原遺跡では、縄文時代晚期の土器等が出土するなど様々な成果が得られています。市の文化財を未来に残し伝える我々の責務を改めて認識し、今後一層身を引き締め、埋蔵文化財の記録と保存に努めて参る所存です。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり多大なご協力をいただきました関係各位ならびに地域の皆様方に心より御礼申し上げ、発刊のあいさつといたします。

令和元年9月30日

南島原市教育委員会  
教育長 永田 良二

## 例　　言

- 1 本書は、東石原遺跡（長崎県南島原市西有家町見岳字東石原所在）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、長崎県が事業主体である水利施設等保全高度化事業特別型（畠地帯扱い手育成型・見岳地区）に伴って実施した。
- 3 調査は、長崎県南島原市教育委員会が主体となって実施した。
- 4 現地調査及び本書作成に係る整理調査の主体及び担当は、以下の通りである。

### 調査主体

南島原市教育委員会	教　　育　　長	定方 郁夫（～平成26年度7月）
同	上	永田 良二（平成26年度8月～）
	教　育　次　長	渡部 博（平成26年度～平成28年度）
	同　　上	深松 良藏（平成29年度～）
理事（文化財・世界遺産担当）	宮崎 誠（平成31年度～）	
文化財課　課長	松本 慎二	
文化財課文化財班　班長	木村 岳士（平成26年度～平成29年度）	
同　　上	末永 透（平成30年度）	
同　　上	鬼塚 俊範（平成31年度～）	

### 調査担当

試掘・確認調査		
南島原市教育委員会 文化財課文化財班 主事	大熊 玲奈	
		（平成26年度～平成28年度）
同　　上　主事（学芸員）	小川 慶晴	（平成30年度）
本調査・整理報告書作成		
南島原市教育委員会 文化財課文化財班 主事（学芸員）	小川 慶晴	

- 5 試掘・確認調査における写真撮影、遺構配置図及び土層実測図の作成は、各調査担当が行った。本調査における写真撮影は、小川が行った。また、本調査における遺構配置図及び土層実測図の作成、航空写真的撮影は、株埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
- 6 遺物の実測・拓本及び製図は、本多和典、小川が行った。遺物の写真撮影は、小川が行った。
- 7 本書における遺物・図面・写真等は、南島原市深江埋蔵文化財整理室で保管している。
- 8 本書の編集・執筆は、小川による。

## 本文目次

第Ⅰ章 位置と環境.....	1
第1節 地理的環境.....	1
第2節 歴史的環境.....	2
第Ⅱ章 試掘・確認調査.....	3
第1節 調査の概要.....	3
第2節 見岳地区の土層.....	6
第3節 東石原遺跡における試掘・確認調査の成果.....	6
(1) 東石原遺跡の土層.....	6
(2) 東石原遺跡における本調査区の設定.....	7
第Ⅲ章 本調査.....	8
第1節 調査の概要.....	8
第2節 調査の成果.....	8
(1) 土層と遺構.....	8
(2) 遺物.....	13

## 挿図目次

第1図 東石原遺跡位置図 (S = 1/200,000) .....	1
第2図 東石原遺跡周辺遺跡位置図 (S = 1/50,000) .....	2
第3図 見岳地区範囲図 (S = 1/10,000) .....	3
第4図 試掘・確認調査坑配置図 (南西側) (S = 1/4,000) .....	4
第5図 試掘・確認調査坑配置図 (北東側) (S = 1/4,000) .....	5
第6図 調査坑土層実測図① (S = 1/50) .....	6
第7図 調査坑土層実測図② (S = 1/50) .....	7
第8図 本調査区位置図 (S = 1/2,000) .....	7
第9図 グリッド配置図 (S = 1/1,000) .....	9
第10図 本調査区東西ベルト土層実測図 (S = 1/80) .....	10
第11図 本調査区東壁土層実測図 (S = 1/100) .....	11
第12図 本調査区遺構配置図 (S = 1/200) .....	12
第13図 本調査区出土遺物実測図 (1 ~ 5 : S = 1/3, 6 ~ 7 : S = 2/3) .....	13

## 表 目 次

第1表 土器・磁器觀察表.....	13
第2表 石器觀察表.....	13

## 図 版 目 次

図版 1 航空写真（南から）.....	17
図版 2 航空写真（北から）.....	18
図版 3 航空写真（俯瞰）.....	19
図版 4 試掘・確認調査.....	20
図版 5 本調査区土層①.....	21
図版 6 本調査区土層②.....	22
図版 7 遺物出土状況・調査状況.....	23
図版 8 遺物写真.....	24

# 第Ⅰ章 位置と環境

## 第1節 地理的環境

島原半島は、長崎県の南東部に位置する胃袋状の半島である。島原半島の中心には雲仙山系の山々が連なり、それらの火山活動によって形成された火山性堆積物が半島南部域を除く殆どの地域を覆っている。半島は、愛野地峡を境に県央地域と連結しており、東岸は有明海と、西岸は橋湾と面している。また、南岸は早崎瀬戸を挟んで天草諸島と対峙する。

遺跡は、島原半島南東部の南島原市西有家町見岳地区に位置する。西有家町の北部には雲仙山系の一つである高岩山（標高881m）がそびえている。西有家町の民話に登場する大男「みそ五郎」の住処としても知られ、山頂付近の高岩神社は農民の神として「高岩さん」「高岩権現」と呼ばれ祀られている。町内の南山麓は有明海まで傾斜地であり、雲仙山系を水源とする有家川、須川川、龍石川といった河川が平野部を形成し、耕地や集落が開けている。

見岳地区は有家川と見岳川に挟まれた緩斜面の農業地帯である。地区内は段々畑や棚田が広がり、コメやジャガイモ、タバコ等が作られている。現在見岳地区では大規模な県営ほ場整備事業が展開されており、それに伴う埋蔵文化財発掘調査を南島原市教育委員会が継続的に実施している。今回の調査も事業に伴い実施したものである。

### ＜参考文献＞

西有家町郷土史編さん委員会編 1998 『西有家町郷土史』 西有家町



第1図 東石原遺跡位置図 (S=1/200,000)

## 第2節 歴史的環境

東石原遺跡の位置する西有家町内は、これまで発掘調査の実績が少なく開発行為に伴う調査は後述する風呂川遺跡が知られる程度であり、町内の歴史は不明な点が多い。しかしながら町内には特徴的な地名が多く、「慈恩寺」、「里坊」など仏教的なものから、「切支谷」といった字もあり、地域の辿ってきた歴史を連想させる。以下町内の文化財を概観したい。

縄文時代後・晩期主体の遺跡として、風呂川遺跡がある。風呂川地区土地区画整理事業に伴い昭和56年（1981年）に長崎県教育委員会によって調査が行われた。縄文時代晩期の深鉢、浅鉢、打製石斧等が出土しており、旧石器時代の石器や中世貿易陶磁器等も確認されている。また、近年発掘調査が行われた慈恩寺跡においても縄文時代後・晩期の遺物が確認されている。

中世期には山城が複数築城される。いずれも南北朝期の争乱の中で有馬氏一族によって築城されたとされる。慈恩寺名の丘陵地帯には大垣城跡があり、里坊名の有家川河岸段丘先端部には大浦（里坊）城跡がある。龍石名の丘陵地帯には小松崎城跡が位置する。

また、町内にはキリストン墓碑が点在している。須川名には国史跡に指定された「吉利支丹墓碑」がある。正面小口面に被葬者名や紀年銘が刻まれており、特徴的な基壇部分も相まって高い価値を有している。里坊名には県史跡に指定されている「西有家町里坊のキリストン墓碑」がある。方郭カルワリオの輪郭を平底彫りで表現する技法は、キリストン墓碑の中でも本碑のみに見られる特徴的な技法である。

### ＜参考文献＞

安樂勉・藤田和裕 1982 「風呂川遺跡」西有家町文化財調査報告書第1集 西有家町教育委員会

西有家町郷土史編さん委員会編 1998 「西有家町郷土史」 西有家町

大石一久編 2012 「日本キリストン墓碑総覧」南島原市世界遺産地域調査報告書 南島原市教育委員会

本多和典 2018 「慈恩寺跡」南島原市文化財調査報告書第14集 南島原市教育委員会



第2図 東石原遺跡周辺遺跡位置図 (S=1/50,000)

## 第Ⅱ章 試掘・確認調査

### 第1節 調査の概要

平成25年度、長崎県島原振興局により見岳地区のは場整備事業が計画された。事業範囲が広域にわたり、かつ周知の埋蔵文化財包蔵地である養台寺跡、野中遺跡を含むため、島原振興局との協議の結果、南島原市教育委員会が主体となり、平成26年度から平成28年度にかけて試掘・範囲確認調査を実施することになった。また過年度の調査結果を受け、平成30年度に内容確認調査を実施した。各年度の調査面積と調査内容は以下のとおりである。

平成26年度 (TP. 1~40)

160m<sup>2</sup> (2 m × 2 m の調査坑40箇所)

試掘調査、範囲確認調査（養台寺跡）

平成27年度 (TP. 41~79)

156m<sup>2</sup> (2 m × 2 m の調査坑39箇所)

試掘調査、範囲確認調査（養台寺跡、

新堂原遺跡、東新堂原遺跡、石原遺跡、

野中遺跡）

平成28年度 (TP. 80~96)

68m<sup>2</sup> (2 m × 2 m の調査坑17箇所)

範囲確認調査（養台寺跡、新堂原遺跡、

東新堂原遺跡、石原遺跡、東石原遺跡、

野中A遺跡、野中D遺跡）

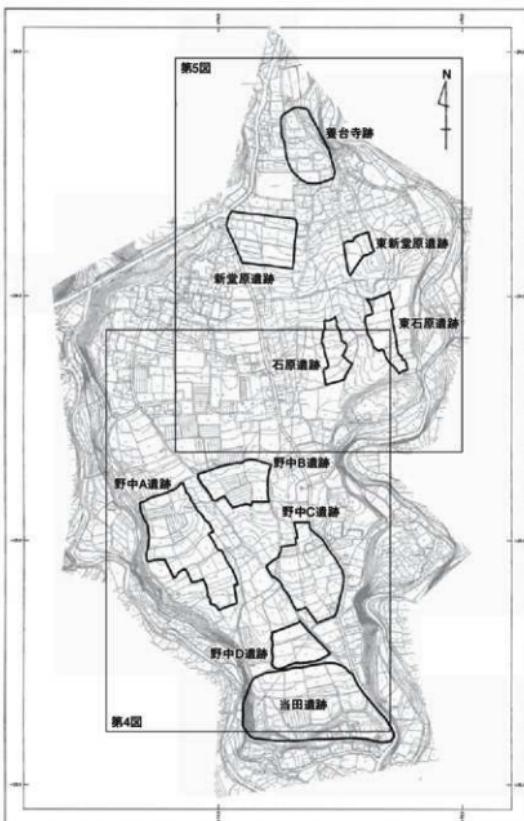
平成30年度 (TP. 97~100)

16m<sup>2</sup> (2 m × 2 m の調査坑 4 箇所)

内容確認調査（東石原遺跡、野中D遺跡）

平成26年度の試掘調査の結果をもとに、新規発見の遺跡として新堂原遺跡、東新堂原遺跡、石原遺跡、東石原遺跡を登録した。平成27年度の調査の結果を元に、野中遺跡を野中A遺跡、野中B遺跡、野中C遺跡、野中D遺跡の4遺跡に分割し、石原遺跡の範囲縮小を行った。また平成28年度の調査の結果をもとに、東新堂原遺跡、石原遺跡、東石原遺跡の範囲縮小を行った。

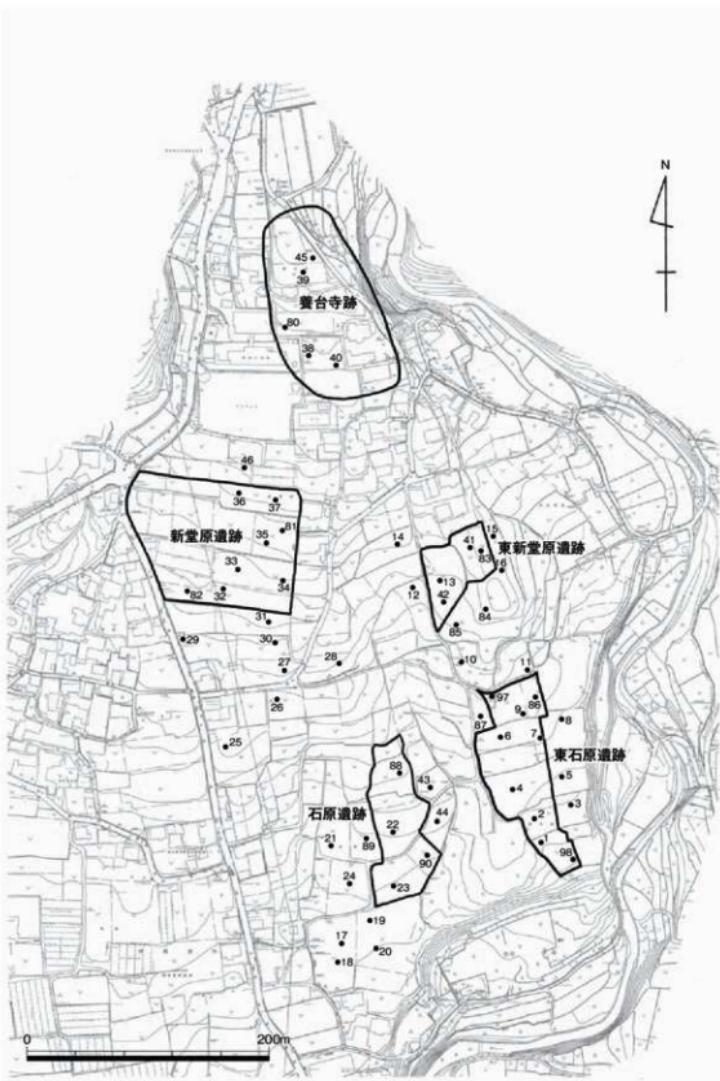
試掘・範囲確認調査の結果、見岳地区は場整備事業計画地内には養台寺跡、新堂原遺跡、東新堂原遺跡、石原遺跡、東石原遺跡、野中A遺跡、野中B遺跡、野中C遺跡、野中D遺跡の計9遺跡が所在することになった。



第3図 見岳地区範囲図 (S=1/10,000)



第4図 試掘・確認調査坑配置図（南西側）（S=1/4,000）



第5図 試掘・確認調査坑配置図（北東側）(S=1/4,000)

## 第2節 見岳地区的土層

試掘・確認調査によって得られた見岳地区の基本層序は以下のとおりである。

I a層 棕褐色土。耕作土。

I b層 暗褐色土。表土下の基盤土。

I c層 黒褐色土。

II 層 黄褐色土。弥生時代の遺物包含層。

III 層 棕褐色土。縄文時代後・晚期の遺物包含層。

IV 層 黄褐色土。褐色土を斑に含む。縄文時代早期の遺物包含層。

V a層 黒褐色土。

V b層 黑色土。

V c層 黑褐色土。

VI 層 明黄褐色土。しまりが強い。

VII 層 暗褐色土。しまりが強い。

VIII a層 棕褐色土。粘性が強い。砂粒大的デイサイトを多く含む。

VIII b層 黄褐色土。粘性が強い。10cm~1m程度のデイサイトを多く含む。

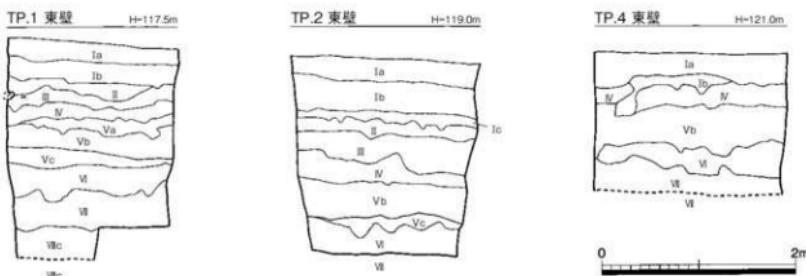
VIII c層 にぶい黄褐色土。しまりが非常に強い。

VIII d層 にぶい黄褐色土。粘性が強い。10cm~1m程度のデイサイトを多く含み、地点によって砂礫層となる。

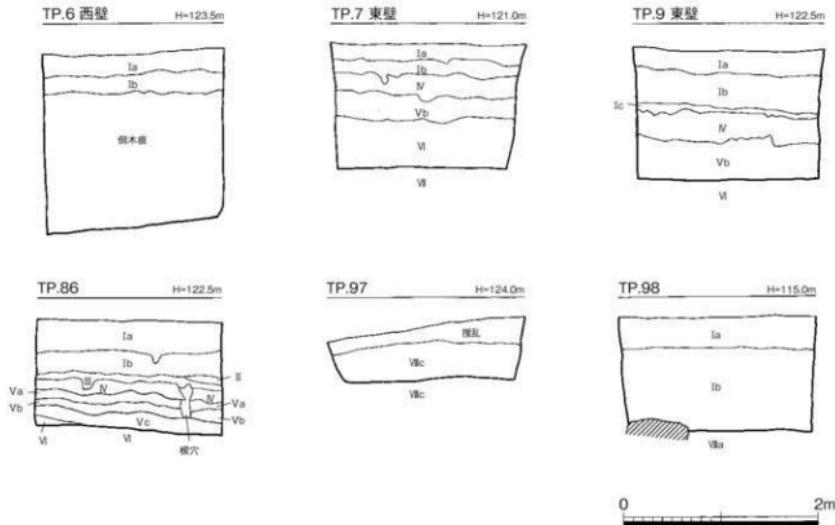
## 第3節 東石原遺跡における試掘・確認調査の成果

### (1) 東石原遺跡の土層

東石原遺跡に係る調査坑番号はTP.1, 2, 4, 6, 7, 9, 86, 97, 98の計9箇所である。東石原遺跡ではII層から弥生時代、III層から縄文時代後・晚期、IV層から縄文時代早期の土器及び石器が出土した。また、TP.6の倒木痕から弥生時代・古墳時代の遺物が出土した。この結果から、東石原遺跡ではII層~IV層を遺物包含層と判断した。



第6図 調査坑土層実測図① (S=1/50)



第7図 調査坑土層実測図② (S=1/50)

### (2) 東石原遺跡における本調査区の設定

試掘・確認調査によって得られた成果をもとに、島原振興局農林水産部農村整備課と協議を行った。その結果、東石原遺跡範囲内の西側部分において本調査が必要であると判断した。

本調査区は、水利施設等保全高度化事業第3工区内において9号排水路を設置する範囲と、切土工事によって埋蔵文化財に影響を及ぼす範囲である。

本調査区の調査前の状況は耕作地であった。



第8図 本調査区位置図 (S=1/2,000)

## 第Ⅲ章 本調査

### 第1節 調査の概要

試掘・確認調査の成果を工事設計に反映し、本調査対象となったのは281m<sup>2</sup>である。南北長70m程度、主な東西幅3m程度と南北に細長い形状をしている。調査期間は土地の作付け時期を踏まえて決定し、平成30年8月31日～平成30年11月2日の期間で行った。

調査はまず世界測地系に則り、東石原遺跡全体を網羅できる範囲で4m間隔でのグリッドを設定した。グリッドはX = -34488、Y = 74796の地点を原点A1とし、グリッドの北端から南に向かってアルファベットを、西端から東に向かって算用数字をそれぞれ割り振った。またグリッドの名称については、グリッド北西隅の交点名称を用いた。その後重機による表土の掘削を行い、調査区内にグリッド杭を設置した。

表土以下の掘削は人力によって行った。調査区の必要な箇所に、グリッドの東西軸に乗る形で50cm幅の土層観察用ベルト5箇所を設定し、ベルトを残しながら掘削調査を進めた。

また調査の進行に役立てるため土層観察用ベルトの両側及び調査区東壁にトレーナーを掘削した。遺構検出作業はIV層上面まで掘削した段階で行った。

写真撮影は隨時必要に応じて行った。土層の記録は、土層観察用ベルト及び調査区東壁において土層実測図を作成した。全ての掘削作業が終了した段階で遺構図を作成し、ラジコンヘリによる空中写真の撮影を行った。

### 第2節 調査の成果

#### (1) 土層と遺構

本調査で確認された基本層序は以下の通りである。層位呼称は試掘・確認調査で確認された見岳地区の基本層序と同様である。

I a層 棕褐色土。耕作土。

I b層 暗褐色土。表土下の基盤土。

III 層 棕褐色土。縄文時代後・晩期の遺物包含層。

IV 層 黄褐色土。褐色土を斑に含む。

V b層 黒色土。

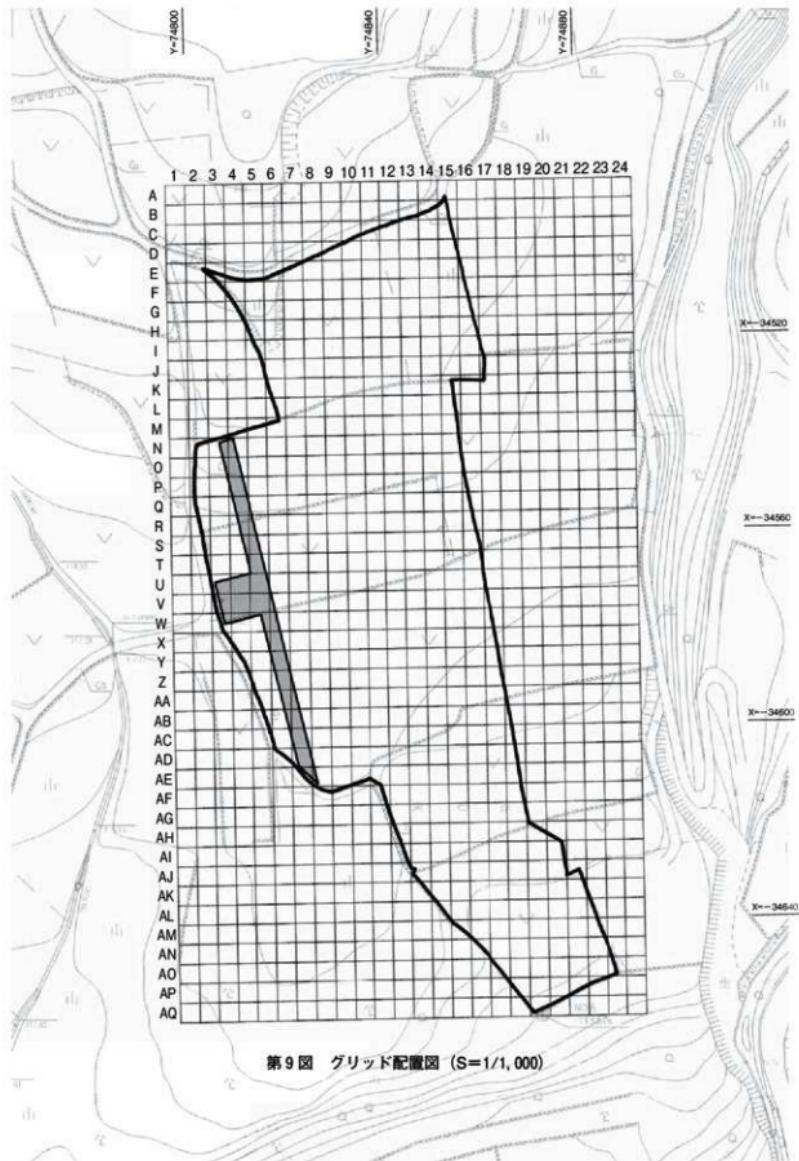
VI 層 明黄褐色土。しまりが強い。

VII 層 棕褐色土。粘性・しまりが非常に強い。砂粒大的デイサイトを多く含む。

VIII b層 黄褐色土。粘性が強い。10cm～1m程度のデイサイトを多く含む。

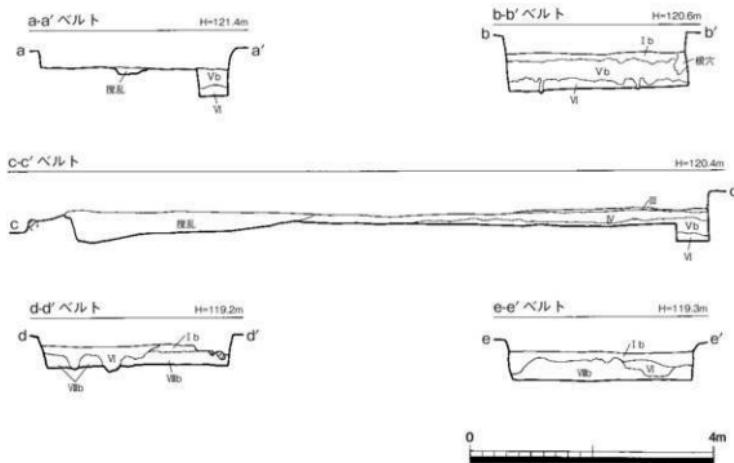
今回の調査では、III層に縄文時代後・晩期の遺物を確認した。また、表面採集にて縄文時代後・晩期、弥生時代、中世期の遺物を確認した。

試掘・範囲確認調査で確認されたII層は、今回の本調査では確認できなかった。III層はグリッドII、V 5周辺にごく僅かに残存していた。またIV層では試掘・範囲確認調査において縄文時代早期の遺物が確認されているが、今回の本調査で遺物の出土は確認できなかった。



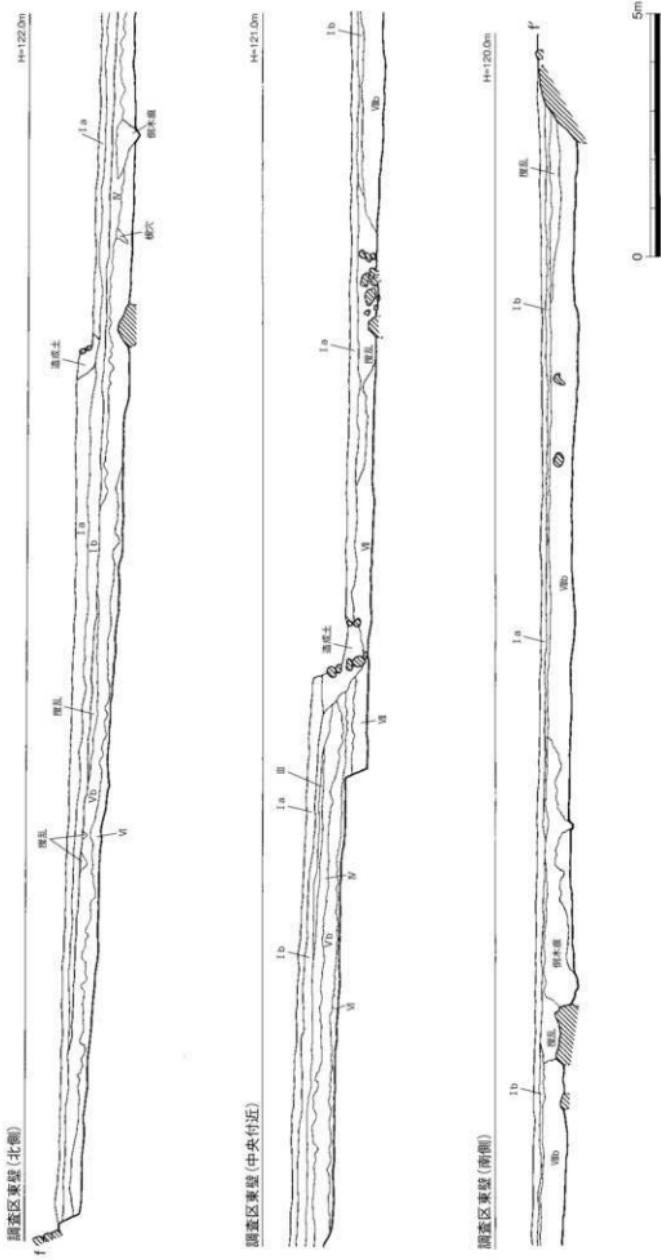
遺構については、Vb層上面やVI層上面に不整形な落ち込みを複数確認しているが、いずれも自然営為によるものであった。

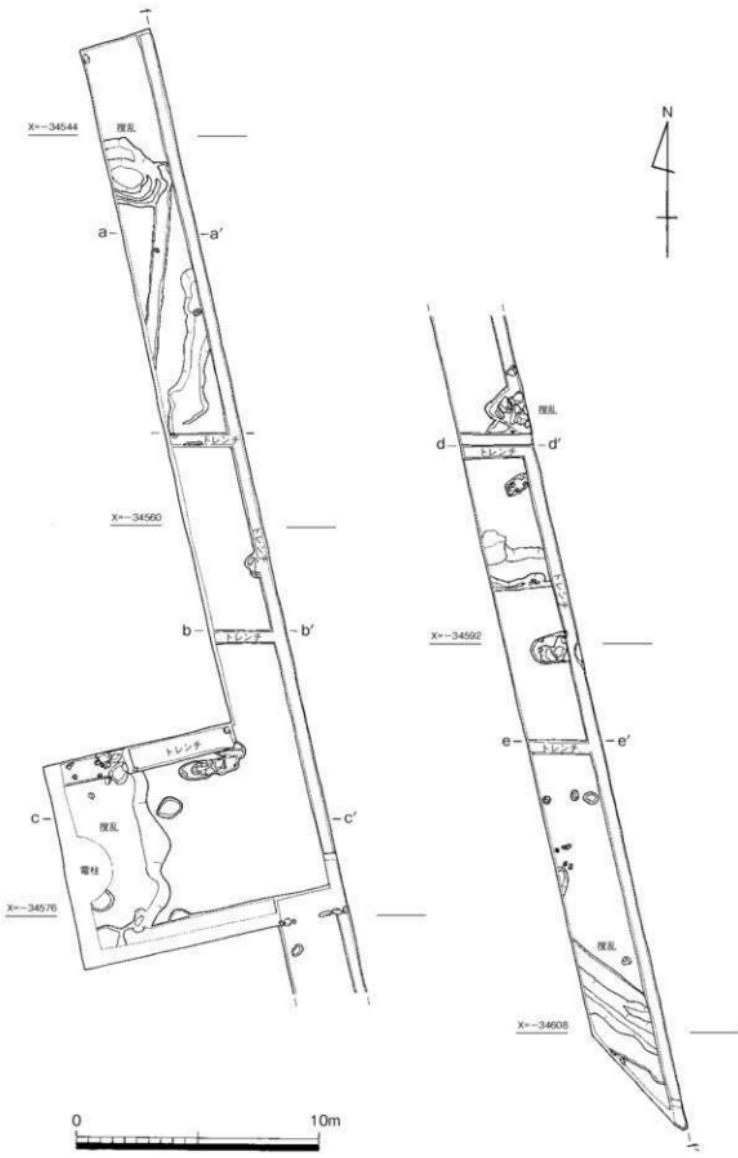
調査によって、調査区内は近現代以降に大きく削平を受け、遺物包含層の殆どが失われている状況が分かった。



第10図 本調査区東西ベルト土層実測図 (S=1/80)

第11図 本調査区東壁土層実測図 ( $S=1/100$ )





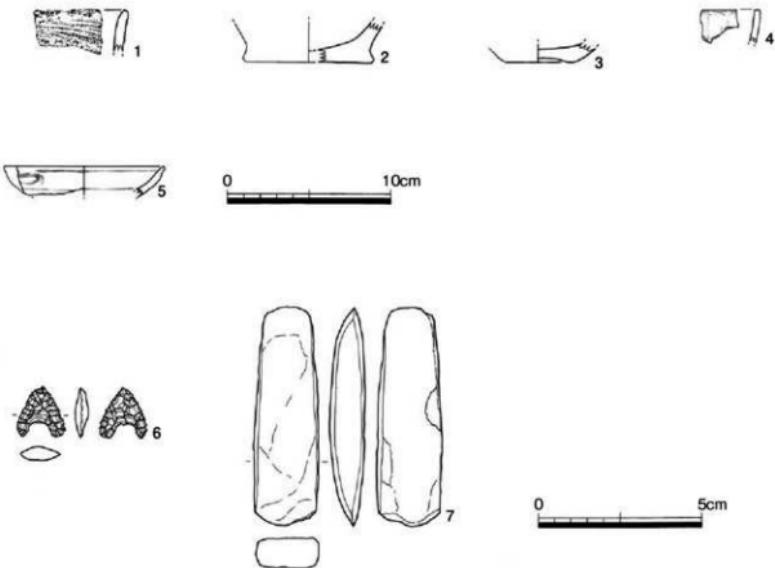
第12図 本調査区遺構配置図 (S=1/200)

## (2) 遺物

調査で得られた遺物の内、図化に耐えるものを選別した。1・2はⅢ層からの出土で、それ以外は表面採集又は搅乱部からの出土である。

1は縄文時代晚期の深鉢口縁部である。2は縄文時代晚期の深鉢の底部で、下部が外側に断面三角形状に張り出す。3は弥生土器の壺の底部資料と思われる。底面は上げ底となる。4・5は貿易磁器の資料である。4は龍泉窯系青磁碗の口縁部である。外面に簡略化された蓮弁文を有する。5は青花皿の口縁部である。内面に圓線を、外面に圓線と渦のような文様を入れる。

6は黒曜石製石錐で、基部が凹形に抉れる。7は磨製石斧である。基部から刃部にかけて僅かに幅広になる。



第13図 本調査区出土遺物実測図 (1~5:S=1/3, 6·7:S=2/3)

第1表 土器・磁器観察表

番号	器種	部位	出土層位	文様・調整		色調		胎土
				外面	内面	外面	内面	
1	深鉢	口縁部	Ⅲ層	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい黄褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英
2	深鉢	底部	Ⅲ層	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい黄褐色	黒褐色	角閃石・長石・石英
3	壺	底部	搅乱	ナデ	ナデ	褐灰色	褐灰色	角閃石・長石・石英
4	青磁碗	口縁部	表採	蓮弁文	-	暗オリーブ色	暗オリーブ色	-
5	青花皿	口縁部	表採	圓線・渦文カ	圓線	白色	白色	-

第2表 石器観察表

番号	石材	器種	出土土地点	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
6	黒曜石	石錐	搅乱	6.8	2.0	1.0	1.1
7	頁岩	磨製石斧	搅乱	1.5	1.5	0.4	48.2



# 図 版





航空写真（南から）



航空写真（北から）



航空写真（俯瞰）

図版 4



TP. 1 東壁



TP. 2 東壁



TP. 4 東壁



TP. 7 東壁



TP. 9 東壁



TP. 86 東壁



作業状況①



作業状況②

試掘・確認調査



調査区東壁（北側）



調査区東壁（南側）

本調査区土層①

図版 6



調査区東壁（中央付近）



土層観察用ベルト b-b'



土層観察用ベルト c-c'



土層観察用ベルト d-d'



土層観察用ベルト e-e'

本調査区土層②



遺物出土状況①



遺物出土状況②



表土剥ぎ状況①



表土剥ぎ状況②



測量作業状況



作業状況①



作業状況②



作業状況③

遺物出土状況・調査状況

図版 8



遺物写真（外面・表面）



遺物写真（内面・裏面）

遺物写真

## 報告書抄録

ふりがな	ひがしいしはらいせき							
書名	東石原遺跡							
副書名	県営水利施設等保全高度化事業特別型（畑地帯担い手育成型・見岳地区）に伴う発掘調査							
卷次								
シリーズ名	南島原市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第17集							
編著者名	小川 慶晴							
編集機関	南島原市教育委員会							
所在地	〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙1023番地 TEL 0957-73-6705							
発行年月日	西暦2019年9月30日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °°°'	東経 °°°'	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひがしいしはらいせき 東石原遺跡	みやましまばらし 南島原市 にしありえちょう 西有馬町	42214	148	32° 41° 08°	130° 17° 53°	20180831 ～ 20181102	281m <sup>2</sup>	農業基盤 整備事業
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
東石原遺跡	遺物包含地	縄文時代 弥生時代 中世		縄文土器 弥生土器 石鎚 磨製石斧 貿易陶磁				

南島原市文化財調査報告書 第17集

## 東石原遺跡

2019.9.30

発行 長崎県南島原市教育委員会  
〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙1023番地

印刷 株式会社 昭和堂

